

全体計画・競技

環境影響評価書案審査意見書と環境影響評価書との関連

項目	評価書案審査意見書の内容	評価書の主な記載内容
大気等	本事業は、近年にない大規模なイベントであり、大会の開催に伴い、多くの関係車両の走行が予定される。また、競技施設等の周辺には、多くの住宅、教育施設、福祉施設、医療機関等の環境上配慮すべき施設が存在している。このことから、2019年夏の試行（輸送テスト）を踏まえたミティゲーションを充実させるとともに、関係車両の走行に当たっては周辺地域への環境負荷の一層の低減に努めること。	大気汚染発生抑制に係る取組として、低公害車等の導入計画の詳細を追記した。（P.194 参照） 2019年夏の試行（輸送テスト）の検証により、競技時間の変更を想定した観客輸送計画の準備等の今後の対応策を追記した。（P.189 参照）
	大気等の予測においては、開催に当たっての東京都等の取組や活動状況を参考として、開催中の大気等の状況を類推する方法としているが、フォローアップでは、一般環境大気測定局などの測定値を用いて、大会の開催による大気等の変化の程度を定量的に示すこと。	フォローアップ調査において、大気汚染物質広域監視システム等における測定値を用いて、大会期間中の大気汚染物質の変化の程度を把握する計画である。
	二酸化窒素及び浮遊粒子状物質については、2018年度の測定結果が公表されていることから、最新のデータに更新すること。	大気汚染物質の測定結果（二酸化窒素及び浮遊粒子状物質）については、最新データに更新した。（P.181 参照）
	競技者は競技中に激しい呼吸をするなど、一般市民と異なる身体的状況にあることから、それらを考慮した予測・評価を行うこと。	マラソン、競歩、ロードレース及びトライアスロンについて、現況調査に大気汚染と運動に関する論文の調査結果を追記した。予測・評価では、それらを踏まえ、日本の大気汚染のレベルであれば問題はないものと判断できることを追記した。（P.810～813 ほか）
	大会における取組を実践的に準備するためテストイベントを活用した実地検証を行うことと、新たな対策を取りまとめた場合はその内容を記載すること。	テストイベントにおける検証結果を受けた今後の対策として、共有情報の選別化や観客への混雑情報の提供方法等の検討について追記した。（P.809 参照）
水質等	テストイベントを活用した検証を行うことと、新たな対策を取りまとめた場合はその内容を記載すること。	2019年に実施された水質・水温調査及び水中スクリーン実験の概要を追記した。（P.890～899 参照） 大会に向けた新たな対策として、三重スクリーンの設置や競技開始時間の前倒し等の水質・水温対策を追記した。（P.905 参照）
	トライアスロン・水泳（マラソンスイミング）については、ワーキンググループを設置し、お台場海浜公園の水質安定化に向けた取組を進めることにより、アスリートへの影響を極力低減することと、検討結果や具体的な対策を明らかにすること。	大会に向けた新たな対策として、三重スクリーンの設置や競技開始時間の前倒し等の水質・水温対策を追記した。（P.905 参照）

生物・生態系、緑	<p>現況調査結果の緑の状況についてみどり率等を用いて説明しているが、直近で最新データが公表されていることから、掲載されているデータを更新し、他の緑に関するデータも同様に最新のデータを用いること。</p>	<p>東京都のみどり率の状況等を最新のデータに更新するとともに、他の緑に関するデータも更新した。 (P. 200、201 参照)</p>
	<p>会場整備により確保される緑化面積の予定が個別に記載されているが、会場整備全体で保全・創出される緑地の総量等が不明であることから、東京ベイゾーン及びヘリテッジゾーンの緑のネットワークなどのトータルのシステムを示すなどして、会場整備に伴う緑化が緑の全体像にどのように貢献しているかを明らかにすること。</p>	<p>会場整備に伴う緑化や大会中の「フラワーレーンプロジェクト」等の取組が、「海上公園ビジョン」等に示す自然軸に沿った生態系ネットワークの創出に果たす貢献について追記した。 (P. 225、230 参照)</p>
	<p>類似大会の実施状況を示すことにより問題はなかったとしているが、大規模な国際大会における危険生物による事故事例の有無等を確認し、記載すること。</p>	<p>危険生物による事故事例の有無を確認し、事故発生時の報告がないことを追記した。(P. 908 参照)</p>
	<p>テストイベントを活用して実地検証を行うとすることから、検証結果を明らかにするとともに、新たな対策を取りまとめた場合はその内容を記載すること。</p>	<p>都市オペレーションセンターにおける情報共有の取組や危険生物に関する情報等の競技運営に影響する異常が発生した場合の対応について追記した。 (P. 910 参照)</p>
騒音・振動	<p>本事業は、近年にない大規模なイベントであり、大会の開催に伴い、多くの関係車両の走行が予定される。また、競技施設等の周辺には、多くの住宅、教育施設、福祉施設、医療機関等の環境上配慮すべき施設が存在している。このことから、2019年夏の試行（輸送テスト）を踏まえたミティゲーションを充実させるとともに、関係車両の走行に当たっては周辺地域への環境負荷の一層の低減に努めること。</p>	<p>2019年夏の試行では、都市オペレーションセンターの試行検証が行われ、交通や気象予測、競技スケジュール変更等の情報共有や提供について、今後検討することを追記した。(P. 255 参照)</p> <p>同時に、交通需要マネジメント（TDM）に関する試行も行われ、更なる交通量低減と追加対策の実施について追記した。 (P. 260 参照)</p>
	<p>大会開催中には多くの大会関係車両が走行し、周辺地域沿道に騒音等の影響を与えるおそれがあることから、関係車両の稼働台数を明らかにした上で、フォローアップにおいて稼働状況を報告すること。</p>	<p>大会に向けた取組として、大会関係車両に可能な限り低公害車両を活用することや使用する車両台数等を追記した。 (P. 257 参照)</p> <p>フォローアップ調査においては、大会関係車両に係る資料をもとに、会場ごとに種類別台数を記載する計画である。</p>
	<p>会場周辺及びラストマイルにおいては、競技の実施に伴う様々な音が発生し周辺住民の生活環境に影響を及ぼすおそれがある。ここでは、テストイベントを活用した実地検証を行い円滑な大会運営のための取組を推進するとすることから、その検証結果を記載すること。また、新たな対策を取りまとめた場合はその内容を記載すること。</p>	<p>テストイベントにおいて、会場内とラストマイルの連携、現場と本部の連携等の試行検証を行い、情報の選別、情報の伝達、双方向のコミュニケーションについて今後検討していくことを追記した。 (P. 255 参照)</p>

	大会における取組を実践的に準備するためテストイベントを活用した実地検証を行うとされていることから、検証結果を明らかにするとともに、新たな対策を取りまとめた場合はその内容を記載すること。	テストイベントにおいては情報収集、組織委員会との連携の検証等が行われ、事案の即時対応のため、現場と本部で共有する情報の選別、情報を確実に伝達する運用の工夫、双方向のコミュニケーションが円滑となる運用等を行う取組を追記した。(P.821、863、917 参照)
歩行者空間	大会中の暑さ対策は東京都と組織委員会が連携して実施し、さらにテストイベントにおける検証結果を踏まえてより効果的な対策を取りまとめていることから、その検証結果を明らかにするとともに、新たな対策を取りまとめた場合はその内容を記載すること。	テストイベントを活用した検証の結果を踏まえ、距離の長いラストマイルや沿道への休憩所設置や沿道施設の協力を得てクールシェアを提供する等の具体的な対策を追記した。 (P.307～309、315 参照)
水利用	大会開催中に恒久施設の節水機器等を確実に稼働させるなど、開催都市の上水利用の負担軽減を図ること。	新規恒久施設における水の効率的利用状況に雑用水利用の計画水量を追記した。(P.322 参照)
	水利用の予測では、恒久施設の取組や運営計画等から推定する方法としているが、フォローアップでは可能な限り水の効率的利用へ取組・貢献等を定量的に示すこと。	フォローアップ調査では、会場ごとの水の使用内訳を把握し、記載する計画である。
廃棄物	大会開催中は、多くの運営時廃棄物の発生が想定される。そのため、各施設の特徴を踏まえ廃棄物の分別、保管、収集運搬、処理・処分方法を明らかにすること。	大会開催中の廃棄物の排出推定量を追記するとともに、各会場等における廃棄物処理方法、排出場所ごとの再資源化方法を明らかにした。(P.364～367 参照)
	これまでの図書では、仮施設整備に伴う建設廃棄物等については全体計画で評価してきたことから、フォローアップで、仮施設の廃棄物の発生量を明らかにすること。	フォローアップ調査では仮施設整備・撤去に伴う廃棄物量を可能な限り施設別、種類別に把握する計画である。
	大会開催中に、「競技会場内での容器包装やレジ袋等の廃プラスチックの削減に向けた取組を行うとともに、観客への働きかけを行う。」としていることから、具体的な取組内容を明らかにすること。	競技会場における、紙類の容器を使用した食事提供やオフィシャルショップでのリユース可能な不織布のショッピングバッグの活用等の取組を追記した。 (P.367 参照)
エコマテリアル	これまでの図書では、仮施設整備に当たって使用するエコマテリアルについては全体計画で評価してきたことから、仮施設整備における環境物品の使用状況を明らかにすること。	仮設会場等・オーバーレイは、大会期間中のみ使用し、大会後は解体・撤去されることから、必要な資材・物品などを可能な限りレンタル又はリースにより調達することを追記した。(P.383 参照) フォローアップ調査では、仮施設整備における環境物品の使用状況について、把握する計画である。
	選手村のビレッジプラザで使用した木材は、大会後各自自治体の公共施設等でレガシーとして活用していることから、フォローアップ等で、その活用状況を明らかにすること。	フォローアップ調査では、ビレッジプラザの木材活用に係る資料を整理することにより、エコマテリアルの利用への取組・貢献の程度を記載する計画である。

温室効果 ガス、エ ネルギー	新規恒久施設では東京都建築物環境計画書制度における段階3（最高評価）を目指すとしていることから、具体的な削減率（ERR）等を一覧で示すこと。	各競技会場（新設）における具体的な低減率を追記した。（P. 401 参照）
	仮設施設も含め各施設のエネルギー使用量をフォローアップで報告すること。	フォローアップ調査において、大会期間中の会場等ごとの電気・ガス使用量、燃料使用量等について記載する計画である。
スポーツ 活動	スポーツ活動については、大会を契機に多くの取組が行われることから、フォローアップ等では、大会の実施により増減すると思われるスポーツ活動の状況を適切に把握すること。	フォローアップ調査において、大会実施により増減するスポーツ活動の状況の詳細を記載する計画である。
	都内の幼稚園児から高校生を対象に大会の観戦機会がえられるよう学校連携観戦プログラムを進めるとしていることから、フォローアップでは、学校数など具体的な内容を明らかにすること。	フォローアップ調査において、学校連携観戦チケットの実施状況等を把握し、実施学校数等の詳細を記載する計画である。
文化活動	複数の主体による文化プログラムが示されていることから、フォローアップ等で、それらの実施状況を明らかにすること。	フォローアップ調査において、各種イベントの実施状況を把握し、文化プログラムの実施状況等を記載する計画である。
	大会では、コミュニティライブサイト会場での文化イベントの開催等により、東京都の文化を広く発信することとしていることから、具体的な発信の内容とその方法を明らかにすること。	「東京 2020 NIPPON フェスティバル」を開催し、大会に向けた機運を最大化するとともに、国内外へ日本の様々な文化を PR することを明記した。（P. 476 参照）
	「Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドライン」を策定し、情報提供のバリアフリー化の進展に向けて、適用対象施設の所有者・管理者等に対し、ガイドラインに即した環境整備を働きかけるとしていることから、フォローアップ等で、具体的な環境整備状況を明らかにすること。	フォローアップ調査において、「Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドライン」に基づく実施状況をもとに、バリアフリーを行った施設等の環境整備状況を記載する計画である。
	文化活動の冒頭部分では、大会はスポーツだけではなく文化の祭典であることが記載されているが、オリンピズムはスポーツ・文化、また近年では環境を柱としていることから、項目全般にわたる形でこの旨を記載すること。	第3章に、オリンピック・ムーブメントにおいて「スポーツ」「文化」とともに「環境」が3つの柱として位置づけられていることを追記した。（P. 2 参照）
ボランテ ィア	テストイベントにおけるボランティア活動（シティキャスト）の検証結果を明らかにするとともに、ボランティアの健康・安全対策など新たな対策を取りまとめた場合はその内容を記載すること。	テストイベントにおいて、シティキャストによる観光案内、活動環境等実践的な検証を行い、それを踏まえたマニュアル等を作成したことを追記した。（P. 492、493 参照） ボランティア応募対象のオリエンテーションでは、手話通訳者や筆談ツール等の整備等多様な参加者への配慮を行ったことを追記した。（P. 496 参照）

	<p>現況調査において東京都内及び東京都外の一部の自治体によるボランティアの募集内容を取りまとめているが、これらの自治体以外でもボランティアの募集を行っている場合はその内容を記載すること。</p> <p>大会で多くのボランティアが活動を行うことも踏まえ、フォローアップ等で、大会時のボランティアの活動状況と共に、大会の実施により増減すると思われるボランティア活動の状況を適切に把握すること。</p>	<p>都外のボランティアの募集内容について、活動内容を追記した。(P. 490 参照)</p> <p>札幌市では競技会場変更に伴い、ボランティアの追加募集を検討していることを追記した。(P. 488 参照)</p> <p>フォローアップ調査において、「東京ボランティアナビ」や大学連携プログラム実施状況等により、活動状況を記載する計画である。</p>
コミュニティ	<p>現況調査において、自治会・町会等の状況で地縁団体数を挙げていることから、自治会・町会等の活動状況についても明らかにすること。</p>	<p>自治会・町会、公民館や学校で行われているコミュニティ活動等について追記した。(P. 502～507 参照)</p>
	<p>現況調査において、公民館や学校などの公共施設の設置数を挙げていることから、これらの施設において行われているコミュニティ活動の状況についても明らかにすること。</p>	
	<p>新たな地域コミュニティの状況として SNS 等を挙げていることから、地域における SNS 等を用いたコミュニティ活動の状況についても明らかにすること。</p>	
環境への意識	<p>「東京 2020 大会では、使い捨て型ライフスタイルの見直しへの転換を図るため、使い捨て型製品の使用の抑制、レジ袋の削減を図るとともに、観客等への啓発を行う。」としていることから、具体的な啓発の内容及び方法を明らかにすること。</p>	<p>木材活用リレーの取組や会場における分別の推進、廃プラスチック削減に向けた働きかけ等を追記するとともに、大会公式ウェブサイトや公式メールマガジン等でそれらの取組を周知し、リサイクル意識を啓発することを追記した。(P. 538～参照)</p>
	<p>選手村地区においては、環境負荷の小さい燃料電池バスの運行を行うとしているが、フォローアップでは、選手村の燃料電池バスをはじめとした、大会全体の燃料電池自動車・バスの稼働台数を明らかにすること。</p>	<p>フォローアップ調査において、大会時の燃料電池自動車・バスの稼働台数を記載する計画である。</p>
	<p>大会時において選手村の水素関連施設の一部を先行して稼働させ、世界に取組を発信していく予定としていることから、ミティゲーションでその発信方法を明らかにすること。</p>	<p>水素社会に向けた取組等を広く世界に発信するため、IBC/MPC 内に水素社会に向けた取組に関する発信拠点を設け、各国メディアの取材拠点として活用することを追記した。(P. 545 参照)</p>
	<p>オリンピック精神の第三の柱である環境については、大会を契機に様々な取組が行われることから、フォローアップでは、それらの実施により増減すると思われる都民等の環境への意識に対する変化について、実際の行動を多方面から捉えて報告すること。</p>	<p>フォローアップ調査において、「みんなのメダルプロジェクト」等の実施状況を踏まえ、環境への意識に対する変化を記載する計画である。</p>

安全	ラストマイルにおけるアクセシビリティについて、テストイベント等における検証結果を記載するとともに新たな対策を取りまとめた場合はその内容を記載すること。	テストイベントを活用したラストマイルのアクセシビリティの検証結果を踏まえ、車椅子利用者、視覚障害者、聴覚障害者に対する対策等を追記した。(P. 560 参照)
	観客の輸送ルートにおいて、アクセシブルルートが検討中の会場もあることから、全会場のアクセシブルルートを早期に明らかにすること。	アクセシブルルートについては最新情報を図化した。(P. 48～89 参照)
	アクセシブルルートの周知については、ホームページや広報誌等、様々な媒体を活用して情報提供をすることから、観客の多様性にも配慮し、周知方法を更に具体的に記載するとともに周知徹底に努めること。	視覚・聴覚障害者も含めた多様な観客等に情報が届くよう、情報表示やアナウンス等についてもアクセシビリティを確保する取組等について追記した。(P. 571 参照)
	安定したエネルギー供給を実施するため、ロンドン大会と同様に仮設電源システムを導入する計画としているが、一時停電に対する対応についても記載すること。	各競技会場等では、大会期間中のエネルギー供給態勢の一環として無停電電源措置の稼働を行うことを追記した。(P. 563 参照)
衛生	東京の安全で高品質な水道水を実感してもらうために、全国初となる屋外型のボトルディスペンサー式水飲栓を東京国際フォーラムに設置しているが、大会中にこの様な東京の水道水の安全性をどのように発信していくのか、取組内容を明らかにすること。	水飲栓に「東京水」のロゴの入ったステッカーを貼付し、「Tokyo water Drinking Station」としてPRを行うとともに、設置場所をマップ化し、ホームページで公表することにより利用促進を図っていることを追記した。(P. 579 参照)
	大会で食品安全確保の手法として用いるHACCPについては、昨年の食品衛生法の改正により法定化されていることから、法令等に係る現況調査において、その概要等を記載すること。	食品衛生法の改正について、原則として、すべての食品等事業者に対して、一般衛生管理に加え、HACCPに沿った衛生管理の実施を求めることを追記した。(P. 580 参照)
	大会開催中の飲食物の提供業務を受託する事業者は、「東京 2020 大会において提供される飲食物の安全確保のためのガイドライン」に基づく事項を遵守するとあることから、食品衛生責任者の設置状況等、ガイドラインの詳細及びその取組状況を明らかにすること。	大会の飲食提供における食品衛生責任者の選任について、一つの施設で、必要に応じて、複数名の食品衛生責任者を選任する旨規定していることを追記した。また、ガイドラインの詳細及びその取組状況を追記した。(P. 584 参照)
	日本では夏場は高温多湿の時期に当たり、飲食物に起因する食中毒のリスクが高い。また、大会中は多数の外国人が訪れることから、多言語による注意喚起など、大会における食品衛生に関するよりきめ細かな情報提供を行うこと。	外国人を対象とした各種リーフレットやポスター等による、食中毒予防等の普及啓発について追記した。(P. 590 参照)
消防・防災	大会開催に向けて実地訓練などを通じた検証、改善を進めるとしていることから、検証結果や改善の取組を明らかにすること。特に、夏の停電は、空調やトイレなど、選手・観客の命にも関わる問題につながることから、施設全般において、非常電源の確保をはじめ、徹底した停電対策を行うこと。	大会期間中の首都直下地震発生を想定した災害対策訓練を実施し、大会時の連絡体制、危機管理機能の向上を図ることを追記した。(P. 639 参照) 各競技会場等では、大会期間中のエネルギー供給態勢の一環として無停電電源装置の稼働を行うことを追記した。(P. 563 参照)

	直近では自然災害が頻発しており、災害発生時には、施設周辺の避難誘導だけでなく公共交通・施設へのアクセス路など、あらゆる面での安全対策が必要となる。こうした点を踏まえ、新たな対策を取りまとめた場合は、その内容を記載すること。	災害対策訓練を踏まえた大会時の連絡体制、危機管理能力の向上を図るとともに、障害者や外国人の避難誘導のための非常時の誘導音の設置、多言語対応・ピクトグラム表示等を追記した。(P. 639 参照)
交通渋滞	夏の試行期間(2019年)の検証結果を明らかにするとともに、トラフィックペリメーター周辺と輸送ルートの渋滞を回避するため、多様な手段を用いて十分に周知を行うこと。	夏の試行期間(2019年)の試行結果を踏まえ、大会期間中の交通混雑緩和に向けた「都庁2020アクションプラン」の更新を追記した。(P. 694 参照) トラフィックペリメーターのホームページ掲載や競技会場周辺へのチラシポスティングにより事前周知を図ることを追記した。(P. 699 参照)
	観客及び会場スタッフの移動は公共交通機関を最大限利用するとしているが、都外には公共交通機関のみでは十分な対応ができない会場もあることから、観客等の移動に支障がないよう対応を検討し明らかにすること。	競技会場から徒歩圏内に鉄道駅がないなど、公共交通機関だけでは対応困難な競技会場では、近隣駅からのシャトルバス運行による輸送について追記した。(P. 699 参照)
公共交通へのアクセシビリティ	セキュリティペリメーターの設置範囲及び設置期間については、関係機関と連携しながら検討することとしていることから、できるだけ早期にこれらの決定を行うこと。	進入禁止エリア(セキュアペリメーター)の設置範囲を図示した。(P. 709~737 参照) セキュアペリメーターは大会後速やかに撤去する計画について追記した。(P. 707 参照)
	競技会場周辺においては、セキュリティペリメーターが設置されることにより一般利用者のアクセシビリティが低下するため、設置に伴う影響や対策に関する事前周知を多様な手段を用いて十分に行うこと。	組織委員会ホームページにおけるセキュアペリメーターの公表、広報誌やチラシポスティングなど様々な媒体を活用して事前周知を図る取組を追記した。(P. 707 参照)
	大会開催中の列車の混雑に対する一般利用者のアクセシビリティ向上に向けた対策を検討し、新たな対策を取りまとめた場合はその内容を記載すること。	大会期間中の鉄道駅の混雑について、大会輸送影響度マップを公表し、鉄道駅利用者への事前周知を行っている取組を追記した。(P. 707 参照)
交通安全	一般道路の輸送ルートについては、4車線以上の高規格道路や歩車分離されている道路を原則選定するとしているが、輸送ルートとラストマイルが交差する箇所には信号機が設置されていない会場や歩道の狭い会場もある。また、大会にはアクセシビリティに配慮が必要な観客も多く訪れる。こうした地理的状況や観客の多様性にも配慮し、事前周知を十分に行うなど、交通安全に向けた取組を徹底すること。	関係者輸送ルート図に歩行者スクリーニングエリア(PSA)等を追記した。(P. 744~765 参照) 関係者輸送ルート、ラストマイルの歩行ルート及びアクセシブルルートの事前周知を十分に行うとともに、大会関係車両の出入口には交通整理員を配置し歩行者の安全確保を図る取組を追記した。(P. 768 参照)
	オリンピック競技期間中においても競技会場周辺では教育施設や保育園の児童の通行が想定されることから、大会関係車両の一時停止等の安全確認を徹底すること。	大会期間中の大会関係車両の走行に際して、競技会場周辺の教育施設や保育園の児童の通行が想定される時間帯における歩行者の安全確認を徹底する取組を追記した。(P. 768 参照)

経済波及、雇用	<p>予測結果では、直接的効果及びレガシー効果に分けて需要増加額が示されていることから、ミテイゲーションについても直接的効果に係る取組に加え、レガシー効果に係る取組についても記載すること。</p>	<p>レガシー効果に係る取組として、新規恒久施設や選手村の後利用について追記した。(P.790 参照)</p>
	<p>予測結果の雇用誘発数について、産業別の数値も記載すること。</p>	<p>予測地域に「全国」を追加するとともに、雇用誘発数について産業別の数値も追記した。(P.789 参照)</p>
事業採算性	<p>調査結果について、今後公表される予定の「組織委員会予算 V4」を踏まえた記述を追記すること。</p>	<p>「組織委員会予算 V4」「組織委員会予算 V5」を踏まえ、記載内容を更新するとともに、新型コロナウイルス対応費について追記した。(P.792～795 参照)</p>
	<p>最終的な収支について、フォローアップ等で適切に報告すること。</p>	<p>フォローアップ調査において、適切に報告していく。</p>